

マーケット概況（2021年4月）

4月の債券相場は、3月末に発表された4月日銀買入オペ予定で全年限の買入額が減額されたことを受けて売り先行で始まり、10年361回債は前月末比+3.0bpの0.120%で取引を開始し、債券先物6月限は一時150円88銭まで下落した。ただ、1日の10年債入札を順調に通過したことで下げ渋り、金融緩和の長期化観測を背景に6日の30年債入札や8日の5年債入札が強い結果となったことや、パウエルFRB議長がIMF会合でハト派的な姿勢を示したことから債券相場は買いが優勢となった。さらに国内外で新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、13日と15日に実施された2本の流動性供給入札を順調に通過したことで相場は堅調地合いを強めた。22日には4都府県で緊急事態宣言が再発出されることが決定したことに加え、バイデン米大統領が富裕層のキャピタルゲイン増税を提案したことによる米株安も相俟って、23日に10年362回債の利回りは一時0.060%と約2ヵ月半ぶりの低水準を付け、先物6月限は151円66銭まで上昇した。月末にかけては翌月の日銀買入オペ予定で買入額が減額されることへの警戒感から戻り売りに押されたが、28日に公表された5月日銀買入オペ予定では全年限の買入額が据え置きとなったことが相場の下支えとなり、結局10年362回債の利回りは0.090%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は、在庫余剰感やGC金利上昇により月初は軟調な地合いだった。2日の3M984回債入札は最高落札利回りが-0.08%台と前回債から上昇したが、期明けの投資家需要が入り始めると9日の3M986回債、16日の987回債入札では-0.09%台に低下した。3Mゾーンを中心に需給環境が好転したことやGC金利が低位で推移したことにより、23日の3M990回債入札は-0.10%台となり、最終的に-0.108%で月内の取引を終えた。6M・1Y金利は、国庫短期証券買入オペのオファー額が月後半から絞られたことにより、入札水準から小幅の低下に留まった。19日の1Y988回債入札は最高落札利回りが-0.12%台、22日の6M989回債入札は-0.10%台となり、それぞれ最終的に-0.130%、-0.112%で月内の取引を終えた。

<一般債市場>

10年政保債の起債は無く、ベンチマークとなる10年地方債の起債スプレッドは国債カーブ+8.0bpと前月比同水準で決定した。クーポン水準は前月債より低下したが、スプレッドが維持され需要は旺盛だった。5年地方債は5ヵ月連続して0.01%クーポンとなり、概ね順調に消化された。既発債も期初の運用ニーズから需給は確りとしており、スプレッドは概ね縮小傾向となった。社債は月間発行額が1兆3,312億円と4月債としては一昨年に次ぐ高水準となった。関西電力、中部電力は公正取引委員会の立ち入り検査を受けて社債発行の見送りを決定した一方、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東京電力パワーグリッドなど大型案件が相次ぎ、発行額を押し上げた。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#362	0.120(1日)	0.060(23日)	0.120(1日)	0.090(30日)
#361	0.120(1日)	0.050(21日)	0.120(1日)	0.075(30日)
#351	-0.005(1日)	-0.060(21日)	0.000(1日)	-0.035(30日)
#146-147(5Y)	-0.085(1日)	-0.110(22日)	-0.080(1日)	-0.095(30日)
#175-176(20Y)	0.500(1日)	0.420(22日)	0.500(1日)	0.455(30日)
#982-#989TDB(6M)	-0.100(6日)	-0.118(12日)	-0.100(6日)	-0.112(23日)
#983-#990TDB(3M)	-0.094(2日)	-0.108(23日)	-0.087(2日)	-0.108(23日)